

日 時  
授業場

児 童 6 年生  
授業者

1. 題材名 和音のひびきを感じ取ろう

2. 題材の目標

- (1) 旋律、音の重なりや和音の響きなどと曲想との関わりを理解するとともに、各声部や全体の響き、声を合わせて歌う技能や、和音に含まれる音を使って旋律をつくる技能を身に付ける。
- (2) 和音の響きの移り変わり、短調と長調の響きや旋律の重なり方の違いなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、それらにふさわしい表現の仕方を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。
- (3) 和音の響きの違いや移り変わりを生かして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、合唱やつくった旋律を発表し合っって気付いたことなどを伝え合ったりする学習に主体的に取り組む。

A 表現

- (1) 歌唱ア、イ、ウ (イ) (ウ)
- (2) 器楽ア、イ (ア) (イ), ウ (ア) (イ) (ウ)
- (3) 音楽づくりア (ア) (イ), イ (イ), ウ (ア) (イ)

〔共通事項〕

ア リズム、旋律、音の重なり、和音の響き、調      イ 音楽の縦と横との関係

3. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 曲想と旋律の特徴、音の重なり、和音の響きなどとの関わりについて理解している。</p> <p>② 各声部の歌声や和音の響きやその移り変わり、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。</p> <p>③ 楽器の音の重なりや和音の響き、調、音楽の縦と横の関係と曲想との関わりを理解し、音色や響きに気を付けて演奏する技能や、各声部の楽器の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けている。</p> <p>④ 旋律やフレーズのつなげ方の特徴を理解し、和音に含まれる音やリズムを基に即興的に旋律を変化させて、自分なりのまとまりのある旋律をつくったりしている。</p>	<p>① 旋律、音の重なり、和音の響きやその移り変わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、各声部のバランスなど、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>② 楽器の音の重なりや和音の響きの移り変わり、調、音楽の縦と横との関係を聴き取り、どのように演奏するかについて思いや意図をもそれらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>③ リズム、旋律の音の動き、和音の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、音のつなげ方を工夫し、音を音楽へと構成することを通して、全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>① 歌声が重なり合う響きの美しさに興味をもち、互いの声を聴き合いながら歌う学習に取り組もうとしている。</p> <p>② 調、和音の響きの違いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、範奏を聴いたり、ハ長調やイ短調の楽譜を見たりして演奏する学習や和音の響きの美しさを味わいながら演奏する学習に取り組もうとしている。</p> <p>③ 和音の響きやその移り変わりへの興味をもちながら、和音に含まれる音を使って旋律をつくる学習に取り組もうとしている。</p>

4. 題材のデザイン (全8時間)

時	教材	○学習活動 ・ 学習内容	手立て	評価の観点		
				知	思	態
1	星の世界 (歌唱)	○曲全体の感じをつかむ。 ・音源を聴いて、捉えた旋律の特徴や音の重なりなどを発表したり話し合ったりして、どのように歌いたいか見通しをもつ。 ・情景を想像しながら歌詞を読んで、曲全体の感じをつかむ。 ○旋律の動きに気を付けながら各パートの旋律を歌う。 ・発音や発声に気を付けて主な旋律を歌う。 ・旋律の動きに気を付け、伴奏の響きを感じ取りながら主な旋律を歌う。 ・発音や発声に気をつけて副次的な旋律を歌う。	I : 星の世界の旋律の特徴をつかもう II : 旋律の特徴は何か？ ・どの段も同じリズム ・続く感じがする旋律になっている	①		①
2		○主な旋律と副次的な旋律の重なりを聴き合って合唱する。 ・①と②③のパートの重ね方を工夫して歌う。 ○和音の響きやその移り変わりを感じ取りながら合唱する。 ・お互いのパートや伴奏の響きを感じ取りながら合唱する。	I : 和音の重なりを意識しながら歌おう II : どのような歌い方をすればより響きのある歌になるかな？ ・声のバランス ・お互いの声を溶け合わせながら歌う	②	①	
3	雨のうた (器楽)	○調の違いに気を付けながら、曲の感じをつかむ。 ・曲全体の構成を考えながら曲を聴く。 ○主な旋律と副次的な旋律をリコーダーで演奏する。 ・ソ#の運指やリズムに気を付けてリコーダーの演奏をする。	I : 調の響きの違いに気を付けて演奏しよう II : より美しい響きになる演奏の仕方するために、どのようなことを考えたらよいか？ ・音の重なりを感じる			②
4		○調の和音の響きを感じ取りながら、和音と低音パートを演奏する。 ・和音の響きを感じ取りながら、全てのパートを合わせて演奏する。	I : 和音の響きを感じながら演奏しよう II : どのように演奏したらバランスよく聴こえるかな ・お互いの音を聴き合う ・旋律の重なり方の違いを意識して	③	②	
5	和音の音で旋律づくり (音楽づくり)	○課題を確認する。 ・お昼の校内放送の BGM をつくるという課題を共有する。 ○ハ長調の和音を聴いて、響きの確認をする。 ・和音の響きを確かめる。 ○創作する曲の構成について知り、リズムを考える。 ・タブレットでハ長調で演奏された BGM を聴いて、リズムづくりの参考にする。 ・Chrome ソングメーカーを使用してリズムをつくる。	I : 校内放送の BGM をつくろう II : 校内放送の BGM に合ったリズムってどんなのかな？ ・明るい感じ ・はずんだ感じ ・ノリノリな感じ ・細かい音がたくさん入っている		③	③
6 (本時)		～本時の展開参照～			③	
7 8		○つくった旋律を和音伴奏に合わせて演奏し、和音の響きやその移り変わりを味わう。 ・つくった旋律を和音伴奏と合わせて演奏する。	I : 校内放送 BGM を完成させよう II : 自分たちがつくった BGM を聴いて、よりよくするために考えた方がよいことはあるかな？ ・聴いてくれる人が「楽しい」と思ってもらえるような BGM になっているか ・ハ長調の和音にぴったりと合うような旋律となっているか考	④		

5. 本時の目標 (6/8)

旋律をよりよいものにするために、和音に含まれる音やリズムなどに着目しながら、互いに考えを出し合うことを通して、全校児童が「楽しい」と思ってもらえるような「校内放送のBGM」の旋律をつくることができるようにする。

6. 本時の展開

教師の働きかけ (●発問, ○発問, ▲補助発問, ■指示・説明) 手立て	◆留意点 ※評価
<p><b>1. 本時の課題を確認し、見通しをもつ。</b></p> <p>▲前回つくったリズムを聴いてみよう</p> <p>●校内放送に合ったリズムは？</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴いてくれる人が楽しいと思ってくれる</li> <li>・弾んだりノリノリな感じ</li> <li>・でもリズムだけだから BGM とはいえないな</li> </ul> </div> <p>■今日は、みんなが考えたリズムに音を足して、BGM の旋律をつくっていくよ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>校内放送の BGM の旋律をつくろう</p> </div> <p><b>2. ハ長調の和音を構成する音を生かしたりしながら、グループで旋律づくりを行う。</b></p> <p>■グループで協力して、校内放送に合った(4小節の)旋律をつくってみよう</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音の上がり下がりを入れたらいいんじゃないかな</li> <li>・繰り返しをいれてみたらいいかも</li> <li>・音の追いかけてこをしてみるの？</li> <li>・同じ音を連続でつかうのもおもしろくなりそう</li> <li>・インパクトのある旋律をつくりたいな</li> </ul> </div> <p><b>3. クラスで共有した BGM のイメージに合った旋律となっているのか話し合う。</b></p> <p>●(自分たちの旋律を聴いて) みんなと確認した BGM のイメージにぴったりな旋律になったかな？</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわくするような旋律になってきたよ</li> <li>・ハ長調の和音の音でつくられているから明るい旋律になっているように思うんだけど、何か足りない感じがするな</li> <li>・楽しい感じの旋律にしたいんだけど、何か工夫できるところはないかな</li> </ul> </div> <p>●みんなが考えたイメージにぴったりな旋律に近づけるためのよい方法はないかな？ <b>Ⅱ</b></p> <p>▲他のグループの旋律も聴いてみよう</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い音や低い音を入れると、わくわくするように聴こえるよ</li> <li>・リズムをもう少し細かくしたら、聴いている人がハッとさせられる BGM になるんじゃないかなと思ったよ</li> <li>・ハ長調に含まれる音を重ねてみる部分があったら、よくなりそうだよ</li> <li>・つくった旋律をはじめとかうしろに入れ替えたりするのも面白いと感じてもらえそうだよ</li> <li>・高い音から始まったら、インパクトがあって、「校内放送が始まるよ」という感じに聴こえるんじゃないかな</li> </ul> </div> <p>■出てきた意見をもとに、旋律をつくってみよう</p> <p><b>4. 次時の BGM づくりに向けて見通しをもつ(振り返り)。</b></p> <p>■次回、BGM を完成させるけど、どんなことを考えてつくったらいいかな？</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージに近い旋律ができあがってきたと思ったけど、音の組み合わせ方をもう少し工夫した方がよいことがわかったよ</li> <li>・もっと面白いと思ってもらえるような BGM にするために、4小節間のどこにどの旋律をもってくるか考えてみたらいいと思ったよ</li> </ul> </div>	<p>◆校内放送で流す曲に合ったリズムやハ長調の和音の響きを確認し、前回作成したリズムに音階を加える活動への見通しをもったり、活動への意欲を高めていく。</p> <p><b>Ⅰ</b></p> <p>◆「ソングメーカー」を使用して旋律づくりをしていく。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>◆つくった旋律を聴きながら、事前にクラスで共有した BGM のポイント「明るい・楽しい」などと、作成した BGM が合っているか考えさせる。</p> <p>※(思・判・表)          学級で考えた校内放送の BGM のイメージに近づくような旋律にするために、互いに話し合うことを通して、作成した旋律には足りない要素があることに気付いたり、リズムや旋律の音の動き、和音の響き等の必要な要素に着もして旋律をつくることに思いや意図をもっている。</p> <p><b>【発言・旋律】</b></p> <p>◆ロイロノートで振り返りを行う。</p> <div style="text-align: right;">  </div>

■ 本時で目指す子供の姿

本時における「問題解決力」を高めている子供の姿

学級が考えるイメージにぴったりな校内放送の BGM に近づけるために必要な要素が何かを互いに考えを出し合うことを通して、和音が生み出す響きやその移り変わりを感じ取りながら、和音に含まれる音・リズムに着目し、旋律をつくる姿。

本時における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

■ 本時のポイント

I：問いから動詞にこだわった課題設定につながるプロセス

前時まで、校内放送の BGM に合ったリズムがどのようなものになるかイメージを共有・作成してきたが、旋律がないため、「BGM とはまだ言えない」というところから、(ハ長調の和音を構成する音をつかって)『旋律をつくって BGM をつくりたい・完成したい』という思いにつながるようにしていく。

II：本質的な気付きに迫るための発問・問い返しの工夫

作成した旋律が、「みんなが考えたイメージにぴったりな旋律に近づけるためのよい方法はないかな？」と問うことを通して、事前に学級で共有した校内放送 BGM のイメージにより近づくためにはどのような方法(ポイント)があるのかを考え、自分たちの旋律に活かしてつくれるようにしていく。

校内放送で流す曲に合ったリズムやハ長調の和音の響きを確認し、前回作成したリズムに音階を加える活動への見通しをもったり、活動への意欲を高めていく。I



校内放送に合ったリズムは？

聴いてくれる人が楽しいと思ってくれるリズムがいいと思うよ

弾んだりノリノリな感じでつくったよ

でも、リズムだけだから BGM じゃないよね



今日はみんなが考えたリズムに音を足して、BGM の旋律をつくっていくよ

校内放送の BGM の旋律をつくらう

この前つくったリズムに和音に使われている音を足して BGM にするぞ！



(ソングメーカーを使用して 4 小節の旋律を作成)

⋮



みんなと確認した BGM のイメージにぴったりな旋律になったかな？

明るい旋律にはなっているように思うんだけど何か足りない感じがするんだよね・・・

楽しい感じにしたいんだけど、他に工夫できることはないかな？



みんなが考えたイメージにぴったりな旋律に近づけるためのよい方法はないかな？ II

高い音や低い音を入れると、わくわくするように聴こえるよ

ハ長調に含まれる音を重ねてみる部分があったら、よくなりそうだよ



リズムをもう少し細かくしたら、聴いている人が「ハッ」とさせられる BGM になるんじゃないかな

つくった旋律の順番を変えると面白くなりそうだよ

高い音から始まったら、インパクトがあって、「校内放送が始まるよ」という感じに聴こえるんじゃないかな

## ■ 音楽科におけるリーダーシップ・フォロワーシップの育成について

### 音楽科における Ls/Fs 育成のポイントは「問題解決力」

#### 〈音楽科で目指す子供の姿〉

令和3年1月中央教育審議会から示された『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）』では、時代を切り開く子供たちに求められる資質・能力として「文章の意味を正確に理解する読解力、教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力など」が挙げられるとともに、豊かな情操については「どのような時代であっても変わらず重要である」と改めて示された。このことをうけ、学校教育において情操教育の中心的な役割を担う音楽科としては、子供たち一人ひとりが感性を豊かに働かせ音楽のよさや美しさを仲間とともに自分の頭で考えながら表現し、生み出す姿を目指す姿として捉え直し、教科の研究主題として設定するとともに、本校の研究である Ls/Fs 育成のポイントとして今年度も「問題解決力」に視点を当てることとした。

問題解決能力について溝上は「具体的に、目標や問題・問いを立てる力、問題解決に関する思考力・判断力・表現力等（帰納的・演繹的推論。批判的思考、意思決定や判断など）、情報処理能力を指す」としていることから、あらゆる学習活動において目に見えない音や音楽を通して意思決定や判断を伴う音楽科としてはその部分に問題解決力を高める活動が十分に考えられる。また、鈴木は問題解決力を育む学習の一つであるプロジェクト学習において題材設定の一番大切なことは「自分ごと」であるとしている。このことから「問題解決力」を育むためには生徒が主体的に学習活動に向き合えるかどうか大きなカギとなることがわかる。そこで音楽科では、学習活動において主体的に音や音楽で意思決定や判断をするために「自分ごと」になる課題設定及び発問を吟味していくことを中核とした授業研究を進めていく。

#### 音楽科における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

- ① 問いから動詞にこだわった課題設定につなげるプロセス
- ② 本質的な気づきに迫るための発問・問い返しの工夫

##### ① 問いから動詞にこだわった課題設定につなげるプロセス I

昨年の研究を通して現実・価値・貢献の視点を伴う課題設定、及び動詞表現にこだわる課題設定には、学習活動が主体的且つ明確な目的をもつ活動につながることに對して一定の効果があったと考えている。

- 鈴木は題材を選ぶ視点として「現実（学習者にとって“自分ごと”で身近に感じるものであること）・価値（取り組む“必然性”を感じられるものであること）・貢献（その取組が自分（たち）以外”の人にも役立つものであること）」の3つの視点をもつことによって効果を得られるとしている。
- 内藤は著者の中で目標の動詞表現にこだわるのが「学習者のゴール像を具体的に描くことができる」としている。音楽科ではこれを課題設定の指針としている。

今年度は加えて、課題設定のためには、問いをもつ（生み出す）ことが重要であることの知見から、これまであまりになりがちであったといから課題設定へのプロセスを明確にもつことを手立てとして設定することで一層子供たちが主体的に学習に向かい、問題解決力を高めるための学習活動の深化へとつなげていきたい。

##### ② 本質的な気づきに迫るための発問・問い返しの工夫 II

学習活動の主体は子供たちではあるが、子供たちだけの活動に終止してしまうと「本質的な気づき」に気付かない、あるいは十分に味わうことができないことが考えられる。伊藤もコルトハーヘンの冰山モデルを用いて、「“見えている言動”は一部で、通常”見えていない部分”が実はとても奥深い」としていることから、学び合いの中で「本質的な気づきにせまるための発問・問い返しの工夫」を手立てとすることで、学び合いが深まることを期待した。

#### 〈参考・引用文献など〉

- 鈴木敏恵「問題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法」教育出版 2012  
溝上慎一・成田秀夫 アクティブラーニングとしての PBL と探求的な学習 2016 東信堂  
内藤佐佐子 伊藤和史シミュレーション教育の効果を高めるファシリテーター Skills&Tips 医学書院 2017